板額杯（はんがくはい）について

板額御前は、中央市旧豊富村の英雄、浅利与一（あさりよいち）の奥様だった人で、笛吹市境川町に「板額塚」（お墓）があるということです。

今から 800 年以上前、かの源平合戦で活躍した弓の名手、浅利与一はその後鎌倉幕府に取り立てられ活躍します。

一方、反乱を起こした平氏方の残党、現新潟県胎内市中条町を治めていた城氏の姫であった「板額」は、捕らわれの身となり鎌倉に送られます。

「板額姫」は、女性でありながらも弓の名手であり、勇猛果敢な戦いぶりが評判となっていました。

「吾妻鏡（あづまかがみ）」（鎌倉時代の歴史書）によると、評判に違わず堂々とした振る舞いとその美貌に魅了された浅利与一は、「姫を妻にしたい」と願い出ます。

そして、鎌倉幕府に反乱を起こした敵方の姫を貰い受けるにあたって、自分も弓の名手として有名であった浅利与一は、「板額が男子を産すれば、必ずや幕府や朝廷を守る立派な武将になりましょう」と懇願したのだそうです。（一男一女授かる）

敵同士であった甲斐の国と越後の国にいた人間的魅力あふれる二人の男女が、鎌倉で出会い結ばれるという、この逸話は、板額姫の異彩を放つ魅力と、矢のように真っ直ぐな与一の性格が垣間見え、結構ドラマチックな話になっています。

「弓道普及」委員会は、笛吹市内に伝わるこの逸話から、少年少女の健全育成を願い「板額杯」の弓道大会を開催することになりました。

＜笛吹市境川町　板額坂交差点付近の板額塚＞